

# 一般社団法人 日本生態学会

## 平成 29 年度第 2 回通常理事会議事録

1. 日時：2017 年 7 月 8 日（土）13:00～17:50
2. 場所：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス会議室 B
3. 出席者：
  - ・理事会構成員（20 名・定足数 10 名以上）  
（理事）可知直毅、占部城太郎、陀安一郎、木庭啓介、北村俊平、久米篤、伊東明、吉田丈人、辻和希、鈴木まほろ、宮下直、佐竹暁子、湯本貴和、別宮有紀子（全理事中 14 名参加）  
（欠席理事）長谷川雅美、日浦勉、大澤剛士、川北篤、近藤倫生、吉田正人
  - ・監事：竹中明夫、岡部貴美子
  - ・オブザーバー：中野伸一、山本智子、小池文人、工藤岳
  - ・事務局：鈴木晶子、橋口陽子
4. 議事概要：

定足数 10 名を超える 14 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第 42 条に従い可知直毅会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第 46 条に則り、可知直毅会長、竹中明夫監事、岡部貴美子監事とし、議事録作成者は陀安一郎理事が担当することとした。

### 報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
  - ・資料 1 に基づいて、琵琶湖賞運営委員会により第 19 回生態学琵琶湖賞受賞者森田健太郎氏と Kenneth M. Y. Leung 氏の受賞が決定した（5 月 10 日）こと、学会員対象に「大会の運営と財政の改革に関するアンケート」を実施した（5 月 22 日～6 月 12 日）こと、*Ecological Research* の出版形態移行と冊子体購読費の変更について会員に知らせた（6 月 6 日）ことなど、陀安専務理事より庶務報告 15 件、会計報告 1 件の報告があった。
2. *Ecological Research* 編集委員会報告
  - ・資料 2 に基づいて、久米編集長より、新任 Editor 7 名退任 Editor 2 名の紹介、2016 年 Impact Factor が 1.283 であったこと、*Ecological Research* 特集企画、学会賞受賞者で論文未投稿者がかなりいることなどの報告があった。
  - ・学会賞受賞者の総説未投稿督促は、会長名で出した方がよいのではないかとの意見があった。

### 3. 日本生態学会誌編集委員会報告

- ・ 資料 3 に基づいて伊東編集長より、編集状況及び刊行状況の報告があった。

### 4. 保全生態学研究編集委員会報告

- ・ 資料 4 に基づいて小池次期編集長より刊行状況及び編集状況の報告があった。
- ・ PDF 公開について編集委員会は発行直後から無料公開を希望している。財政状況を考慮して執行部で検討し、12 月理事会で提案することになった。

### 5. 大会報告 (ESJ64・ESJ65)

- ・ 資料 5 に基づいて山本大会企画委員長より報告があった。

#### <ESJ64>

- ・ 国際文献社への外部委託のプロセスの確認不足で、申込みシステム英語化を急遽学会がすることになった。参加者へのリマインドメール方法についても検討することにした。
- ・ 企画委員会スリム化を進めた。賞状の PDF 化は手間を減らすことで企画委員会の負担軽減に役立った。PDF 賞状について不評の意見もあるがこのまま進めることとした。
- ・ 外部委託と合わせて委員もスリム化を目指す。

#### <ESJ65>

- ・ 6/8 に合同会議を実施した。
- ・ ポスター発表を 3 日間で行うことを検討中。高校生ポスター発表は一般と同じ日（土曜日）に実施予定。
- ・ 学生の会費を東京より 1000 円高くする予定との報告があった。業務委託費が増えているため、理事会として一般会費も東京大会より 1000 円高くすることが提案された。最終決定は実行委員会にゆだねることになった。
- ・ 大会補佐アルバイト雇用について、能力・仕事内容による雇用条件の配慮は執行部と個別相談することになった。学部学生の基本時給は東京都最低賃金（現在 932 円）に設定することが確認された。
- ・ 実行委員会の負担軽減のため、大会 HP の外注について神戸大会から行うことを検討することになった。

### 6. 各種委員会報告 (自然保護・キャリア支援・電子情報)

#### <自然保護>

- ・ 資料 6 に基づいて、可知会長より、自然保護専門委員会から「銭函海岸における風車建設の中止を求める意見書」(5 月 29 日)を提出したとの報告があった。

#### <キャリア支援>

- ・ 資料 6 に基づいて別宮理事より報告があった。ジェンダーサミットに生態学会から 10 万円協賛、参加報告をニュースレターに掲載することとした（7 月末締切）。
- ・ 東京大会キャリア支援フォーラム。最大 100 名ほど参加があった。札幌大会は遠方のため開催せず、近畿での大会での開催を検討することとした。

#### <電子情報>

- ・ 資料 6 に基づいて竹中委員長より学会サーバーのクラウドサービスへの移行の提案があり、電子情報委員会の提案通りすすめることが全会一致で承認された。
- ・ 移行時期については大会企画委員会・実行委員会と相談しつつ決めることになった。

#### 7. 学術会議報告

- ・ 吉田丈人理事より報告があった。生態学の展望は改定し査読中。査読が通れば今期中に学術会議から公表される予定。
- ・ 来期も生態科学分科会が続く予定との報告があった。

#### 8. 大会のあり方検討部会報告

- ・ 資料 7 に基づいて木庭理事・吉田丈人理事より、第二回生態学会アンケートを実施したことについて報告があり議論した。
- ・ 実施期間は、2017 年 5 月 22 日から 6 月 12 日（6 月 5 日までの締め切りを 1 週間延長）、回答数 714（前回は 506、6 月 5 日時点では 564）、そのうち学生 12.3%（88）。
- ・ アンケート結果報告したのち、理事の意見をもらった。今後の予定について、12 月理事会では具体的な案をあり方検討部会から提案する予定であることが示された。神戸大会から変更するためには 2 月理事会で決める必要があるが、意見が割れるなら以降の大会に先送りする。

#### 9. 生物科学学会連合からの報告

- ・ 資料 8 に基づいて宮下理事より生物科学学会連合第 15 会定例会議における議論の報告があった。生物科学学会連合に生態学会としてどのように関わるかに関する意見交換があった。
- ・ 生物学オリンピックの出題者は会長と生科連担当理事で相談して依頼することになった。問題を出題することで生物学としての生態学を示していくことが重要との意見があった。

#### 10. INTECOL・EAFES・NIE との合同シンポについて報告

- ・ 資料 9 に基づいて中野オブザーバーより報告があった。
- ・ INTECOL 北京、21 日以降にプログラムが来る予定。

- ・ EAFES（名古屋）について、12 シンポ（2 時間）を立てる。全体のテーマを検討中。名古屋大学農学部講義室で 2018 年 4 月 21 日～22 日に開催予定。
- ・ NIE 合同シンポ。京大生態研と韓国生態院との合同シンポを企画中。12 月初旬に日本に NIE から 7 人を招待する。若手が企画するシンポを考えている。来年 EAFES でも日韓合同のシンポを立てたい。

#### 11. 理事会の議事録の整備・公開について

- ・ 資料 10 に基づいて竹中監事から、監事からの提案を受けて執行部で検討した結果、理事会の議事録を定款にしたがって作成し、今後はウェブ公開することになったとの報告があった。メール審議による理事会の決定についても同様に議事録の作成・公開を行う。

#### 12. 若手サポートについて

- ・ 若手担当の大澤理事より、生態学をはじめたばかりの学生の支援体制や、若手の会の立ち上げ・サポートなどについて学会として議論してはどうかとの提案があった。本人欠席のため、資料 11 に基づいて、可知会長より説明があった。

#### 13. アメリカ生態学会年大会への学会としての参加について

- ・ 可知会長より、アメリカ生態学会年大会において各国の生態学会長が集まる情報交換会（会長・編集長・編集幹事・幹事長などが参加）が行われる予定であるが、今年は研究発表のため滞在している占部副会長に参加してもらう予定との報告があった。
- ・ 岡部監事より、昨年度の情報交換会の状況説明があった。
- ・ 占部副会長から、日生態学会の紹介ポスターを貼れるので執行部で準備する予定との報告があった。
- ・ 情報交換会で聞いてほしいことがあれば占部副会長へ連絡くださいとの案内があった。

### 審議事項

#### 第 1 号議案 寄付金等取扱規定について

- ・ 資料 12 に基づいて陀安専務理事より寄付金等取扱規定の原案の説明、提案があった。特別会計に基金を設けているが、定款でいう「基金」との関連に確認が必要なため、継続審議となった。

#### 第 2 号議案 国際情報発信強化の科研費申請について

- ・ 現在の国際情報発信強化の科研費が 2017 年度で終了するため、2018 年度からの申請を行うが、生態学関連学会との英文誌編集協力を基盤とした

申請内容とすることが全会一致で承認された。

### 第3号議案 入会規則（賛助会員会費・地区会費）について

- ・ 資料13に基づいて、2017年3月に東京大会総会で決議した会費のうちの「賛助会員会費」の内訳の書き方に問題があるので、賛助会員会費については、札幌大会総会で以前の記載方法に戻す提案をすることが全会一致で承認された。
- ・ 地区会費についてはすべての地区会で0円とすることが全会一致で承認された。

### 第4号議案 将来計画委員会からの提案について

- ・ 資料14に基づいて辻理事より、会員数減少対策、若手支援などに関する提案があった。
- ・ 私学理系教員選考会についてはキャリア支援委員会から会員に知らせることになった。
- ・ HPからの情報発信力強化について提案があったが、費用は科研費次第であるとの議論になった。広報委員会を設置し予算を付けることも検討し、継続して審議することとした。

### 第5号議案 保全誌編集長について

- ・ 次期編集長として小池文人氏が全会一致で承認された。

### 第6号議案 九州大学博物館の要望書について

- ・ 資料15の自然史学会連合の要望書案に日本生態学会も同意し要望者となることの可否を審議した。第3段落の「館員から」を削除するという提案があり、その他は全会一致で承認された。

### 第7号議案 日本生態学会就業規則改訂について

- ・ 資料16に基づいて提案があり、就業規則のうち、給与計算の起算日について休暇に関する規程の軽微な修正、条文番号の修正を内容とする改訂案が全会一致で承認された。

### 第8号議案 大会について（ESJ66開催地）

- ・ 神戸市国際会議場において2019年3月15日～19日の日程（大会会長：角野康郎氏（神戸大学）、大会実行委員長：丑丸敦史氏（神戸大学））で行うことが全会一致で承認された。

### 第9号議案 ヒアリ対応について

- ・ 資料17に基づいて、「特定外来生物のヒアリ類に対する緊急的および継続的な対策に関する要望書」を生態系管理専門委員会委員長名と近畿地区会

長名で提出することについて、可知会長・辻理事より報告があった。

- ・ これに連動して、「特定外来生物ヒアリの侵入とその対応について」という題で、生態学会会長メッセージを発信して要望書にリンクするという提案があった。文案を「エールとして」→「支援の意味も込めて」に変更することが全会一致で承認された。

**閉会**：以上の議事を終え、17時50分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

平成29年7月8日

会 長   ：   可知 直毅    Ⓜ

監 事   ：   岡部貴美子   Ⓜ  
          竹中 明夫    Ⓜ